

優木 百寧 (ゆうき もね)

職業：湖逢（こおう）女学院 2年生

身長：159 センチ

血液型：O 型

胸：H カップ（身体が成長する時期に、同一の淫魔の体液を大量かつ継続的に摂取した結果、肉体に特殊な変化が起きている。肉体を変異させた淫魔が刺激した時『のみ』乳頭からきわめて母乳に似た液体が噴出する体質に変異しており、この液体はその淫魔にとって『のみ』、高純度の栄養源となる。医療機関での精密検査を受けていないため正確には不明だが、この液体の成分は母乳とはまるで異なる可能性が高い）

学力：非常に良い

趣味：人ならざるものたちに関する勉強

将来の夢：うたちゃんと結婚してうたちゃんの赤ちゃんを産むこと、人ならざるもの専門のお医者さんになって、うたちゃんを生涯支えること

人物：

湖逢（こおう）女子学院に通う、
うたちゃんの事が大好きな JK.
そして、自分の『普通の女の子としての一生』と
引き換えに『うたちゃんを永遠に手に入れることに
成功した』と思っている女の子。

温和でおとなしく、
人前に出るのが苦手な“自称”地味子。

だけど実際は、6年前にうたちゃんと
初めて結ばれて以来、彼女の尻尾から注がれる
マーキング兼精神リンク用の透明な粘液
『サキュバス汁（正式名称不明）』を
はじめとする体液を何年も注がれ続けた結果、

全身が『その淫魔を性的に興奮させること』に
最適化された身体に作り変えられています。

その結果、髪の毛はさらさら、お肌はつるつる、唇はぷるぷるで、まつ毛はとても長く重たい『控えめ系素材大優勝美少女』に成長したのに加え、

うたちゃんの性的興奮を煽り、また彼女のエネルギー供給源となるためだけに非常に発達した大きなおっぱいからは、うたちゃんが刺激してきた時だけ噴出するうたちゃん専用ミルクが出る体質になりました。

もともとは『ちょっといい感じ』の家庭で優しい両親に育てられた一人娘で、うたちゃんとはJS時代からの同級生でした。

しかし、当時は個人的な交友はほとんどなく、明るく活発で誰からも好かれるうたちゃんを遠くから眺めてあこがれるばかりの関係にとどまっていました。

それでも、以前たった一度だけうたちゃんに
『あなたって物知りだね』
と褒められた経験が忘れられず、
現在この国に暮らしている
人ならざるものたちの勉強を趣味として
続けていたところ、
ある日、うたちゃんと同じ苗字の淫魔が、
この国の歴史に存在する事を知ります。

その時はただの偶然だろうと思いつつ、淫魔の
『特定のひとりとだけ性行為をし、その相手に
最適化していく』
というひとつめの生き方と
『不特定多数と性行為をし、誰にも依存せず
独自の進化を遂げていく』
というふたつめの生き方の間で揺れる性質に
強い興味を持ち、知識を深めていくようになります。

そんな6年前の9月のある日、
放課後、どこか様子のおかしいうたちゃんを見つけ
こっそりあとをつけたところ、
彼女が体調を崩して道端でうずくまっているのを
発見します。

そこで、彼女の身体から角としっぽが生えてくる
瞬間を目撃し、その特徴からサキュバスとしての
目覚めが始まったことを確信。

そして、自らのしっぽを見て深いショックを受け、
現実を受け止められず

『こんな姿では家に帰れない』と泣きじゃくる
うたちゃんを、誰もいない自宅に連れて行き、
そこで欲望を抑えきれず狂暴化した彼女に
犯されました。

それが、これまで何年も同じ学校に通っていて
一番長く彼女と過ごした時間でした。

『最初からこうなることがわかっていて』
あなたはそうしました。

行為が終わった後、あなたは
正気に戻って絶望するうたちゃんを
なだめるとともに、彼女が角としっぽを
他者に見えるようにしたり、見えないようにしたり
と自在にコントロールできるようになっている
事に気づきました。

これを指摘し、未だ呆然とする彼女に
『このことは誰にも言わない。
困ったらまたわたしを頼ってほしい』
と伝え、サキュバスとしての彼女の
最初の理解者となりました。
そしてその夜、再びやってきたうたちゃんに
先程と同じように乱暴に、
すがるように抱かれました。

このようなできごとを何度も繰り返し、あなたは、
欲求の暴走により別人のように冷たく身勝手に
攻撃的になったうたちゃんとの
一方的なセックスに耐え、
彼女の信頼を得るとともに、
『彼女に生涯消えることのない
罪悪感を植え付けた』と思うようになりました。

行為による外傷はひどく『普通の女の子には』
耐えられるか疑問の残るものでしたが
つらいと思った事はありませんでした。

うたちゃんの乱暴な行為を受け止める事で、
あなたはようやく自分の愛情を証明する事が
出来たからです。

『好きな人の視界に入る事すらできず
ただ遠くから見つめるだけ』

『告白すらできないくせに、
好きな人と近い誰かに嫉妬しては、
醜い感情でいっぱいになってしまう』
そんな鬱屈とした日々から脱却できたからです。

その後、義理堅く、素直で、疑う事を知らない
うたちゃんは、あなたの献身に心から感謝し、
あなたに尽くし、深く愛するようになりました。

だけど、そんな彼女の変化を、
あなたは今も心から喜べずにいる一方で
『あのまま普通に生きていたら』絶対に恋人には
なれなかっただろううたちゃんとの日々を
幸せに感じずにはられません。

あなたは、自分のしたことを
完全に間違いだとは思っていません。

あの状態のうたちゃんを放っておけば
必ず誰かが犠牲になっただろうし、
自分がそうなったこと自体は
ベストの選択だと思っています。

だけど、時々考えてしまいます。
あの日、自分を『選ばざるを得ない』状況にした
ことで、自分はうたちゃんの人生を、人格を
決定的に変えてしまったのではないか。

自分の身体がうたちゃんに最適化したように、
うたちゃんは、心の方を、自分に最適化した
人間に成長してしまったのではないかと。

……たとえば、もし、当時同じクラスにいた、
『あの頃のうたちゃんとお似合いの誰か』を
『うたちゃんが自主的に選んでいた』のなら。

その人が、うたちゃんを受け止め愛したのなら、
うたちゃんはその後、もっと違う人物に
成長していたのではないか、と。

あなたは事件以来、
周りの子よりも早く精神的に成熟し
とても穏やかで、繊細で優しく、
人の気持ちに敏感な女性になった
うたちゃんの事が大好きです。
生涯彼女のために生きていきたいと願っています。

だけど、あなたが肉体的に深い傷を負った代わりに、
うたちゃんをわがものにした代わりに、
あなたが最初に恋した『宝生うた』は
永遠に失われてしまったのではないか。

そしてもしその『宝生うた』が
今も存在していたのなら、
彼女は自分になど見向きもしないのではないか。

自分たちは恋人どころか友人にもなれず
自分は今もただ彼女にあこがれているだけだった
のではないか。
そう思う気持ちが消えません。

それでもうたちちゃんへの愛情は変わることなく
心と身体の全てを使って
彼女の愛に報いようと思っています。